

【日本の大学】第96回—徳島大学：理・医系を中心に未来社会に貢献

徳島大学は、四国徳島県の県庁所在地徳島市に本部を置く国立の総合大学である。明治時代（1874年）に創設された師範学校や、大正時代の1922年にできた高等工業学校、戦時中の1943年にできた医学専門学校などを引き継いだ形で、1949年に学芸学部、工学部、医学部の3学部で発足した。現在は、理系医系を中心とする6学部（総合科学部、医学部、歯学部、薬学部、理工学部、生物資源産業学部）とそれにつながる大学院研究科などからなっており、7千人を超える学生が学んでいる。

理念としては「自主と自律の精神に基づき、真理の探究と知の創造に努め、卓越した学術及び文化を継承し向上させ、世界に開かれた大学として、豊かで健全な未来社会の実現に貢献する」と謳っている。



常三島キャンパス（助任の丘）

以下、徳島大学のホームページなどを参考に、大学の歴史や現況を紹介しよう。

大学の起源として最も古いのは1874年に創設された徳島師範期成学校である。旧徳島藩の藩校があった徳島城内の西の丸に設立された。その後、徳島県師範学校、官立徳島師範学校などに改称した。これとは別に、1922年には県立実業補習学校教員養成所（のち県立青

年学校教員養成所、官立徳島青年師範学校に改称) が設置され、この二つの流れが、戦後、徳島大学設立時に学芸学部となった。学芸学部は1966年に教育学部と改称されたが、1986年に教育学部付属の小・中・幼稚園・養護学校を国立の鳴門教育大学に移管したあと、1990年3月に廃止されている。

教育学部の後継として、文理融合教育を目指して1986年に設置されたのが総合科学部である。人文・人間系の人間文化学科、自然科学系の総合理数学科、人文系と自然科学系を統合した社会創生学科の3学科構成で教育を進めてきたが、2016年に他学部を含めた大幅な教育体系の見直しが図られた。

工学部の起源である官立徳島高等工業学校は、1922年に徳島市常三島町に設置された。土木、機械、応用化学の3学科だった。応用化学科の中にはのちの薬学部の母体となる製薬化学部(1937年に製薬化学科となる)が設けられた。大学発足時には工学部の薬学科だったが1951年には薬学部として独立している。工学関係では、1954年に工業短期大学部を併設(1996年に廃止)、1964年に大学院工学研究科を設置(2006年に大学院先端技術科学教育部に改組)などが実施された。



キャンパス風景

組織を大幅に見直し、新学部も

2016年の組織の見直しでは、総合科学部3学科のうち自然科学系を分離し、工学部7学科と合わせて理工学部理工学科となった。この結果、総合科学部は社会総合科学科1学科となったほか、新たに生物資源産業学部生物資源産業学科を新設している。

総合科学部の社会総合科学科では、国際教養、心身健康、地域デザインの3コースを置き、グローバル化が進む現代社会の様々な課題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる人材養成に取り組む教育を行っている。教育理念としては、人文・人間・社会・地域・情報の諸科学における専門知識や専門技能、技術を身につけ、専門分野の融合を図り、現代社会の諸課題の適格な把握・解決に対応できる実践力のある人材の養成を掲げた。

これを実現するために、総合科学実践講義と総合科学実践プロジェクトという新規科目を開設し、実践力の養成に努めた。科目の中には、海外でのフィールドワークを行う科目も含まれ、グローバルな諸課題に実践的に取り組むことを目指している。各コースでは、教員免許や学芸員資格、社会調査士、認定心理士、健康運動指導士などの資格取得も可能となっている。

理工学部は、理工学の幅広い分野をカバーする1学科8コース1プログラム、社会人にも門戸を開く夜間主コースで構成されている。科学技術の両輪となる理学と工学が融合した先進基礎教育による、イノベーションを支える俯瞰的視野をもった人材の育成、並びに科学技術の進歩に対応できるグローバル人材の育成を目指している。志望と成績によって、2年次進級時にコースの変更を可能とする経過選択制を導入、科学・技術・工学・数学4分野の理工学基礎教育の充実、学部の基盤教育と大学院の研究を通じた教育を円滑に接続する6年一貫カリキュラムの導入など様々な特色のある教育システムを展開している。数学・理科の中学校教諭や数学、理科、情報、工業の高校教諭の免許状の取得が可能である。

8コースは、理学系が数理科学と自然科学の2コース、工学系が社会基盤デザイン、機械科学、応用化学システム、電気電子システム、知能情報、光システムの各コースと医光/医工（医学と光学/工学両方の知見）融合プログラムからなっている。

生物資源活用で新学部

2016年に設立された生物資源産業学部は、「1次産業、食料、生命科学に関する幅広い知識と、生物資源の製品化、産業化に応用できる知識と技術を有し、国際的視野に立って、生

物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を養成すること」を基本理念として掲げている。農学系の系列に属する学部であるが、幅広い生物系の分野を包含し、新しいバイオ産業を創出することを特色とした全国的にも珍しい学部である。生物資源とは、農林水畜産物、微生物、動植物、バイオマスなど、地球上に普遍的かつ広範囲に存在する生物由来の資源のことである。学科としては、生物資源産業学科1学科の中に、応用生命コース、食料科学コース生物生産システムコースの三つの履修コースを設けている。また、2020年度、22年度にはそれぞれ、大学院の博士前期課程と後期課程が設置された。

1951年に工学部から分離独立して発足した薬学部は、その後、薬学科と創製薬科学科の2学科となっており、創薬や生命科学を中心とした特色のある教育と研究を行っている。1965年には大学院薬学研究科を設置し、1996年には、大学院薬学研究科に医療薬学専攻を新設、さらに2004年には大学院薬学研究科を薬科学教育部に改組し、創薬科学と医療生命薬学の2専攻を設置するなど体制を充実させている。2006年度からは薬剤師と臨床薬学研究者の養成を主目的とする6年制の薬学科と、創薬研究者の育成を主目的とする4年制の創製薬科学科の2学科をスタートさせている。

医学部の起源は1943年にできた徳島県立医学専門学校である。第二次大戦中だったが、仮校舎を旧徳島城内に置いた。その後官立徳島医学専門学校に改称、基礎医学校舎が昭和町に竣工したため、移転している。大戦後、1948年に徳島医科大学が設置されたが、翌49年5月に徳島大学が開設されるとともに同大医学部となった。

医学部は医学科のほか、1964年に栄養学科（2014年に医科栄養学科に改組）が、2001年に保健学科がそれぞれ発足した。医学科（修業年限6年）は基礎・臨床融合型の11講座53分野があり、医学・医療の発展に寄与する医師及び医学研究者の養成を行っている。医科栄養学科（同4年）は、国立大学医学部としては、日本で唯一の学科であり、栄養学2大講座8分野からなり、健康増進、疾患の予防や治療に貢献する（管理）栄養士及び栄養学教育・研究者の養成をしている。保健学科（同4年）は、専門的な知識や技術を持った看護職・診療放射線技師・臨床検査技師の養成及び将来における医療技術の教育・研究者の養成を行っている。



藤井節郎記念医科学センター

歯学部が設置されたのは、1976年である。歯学部附属病院はその3年後の1979年に開設され、大学院の歯学研究科（博士課程）は1983年に設置された。歯学部附属病院は、2003年に医学部・歯学部附属病院に統合された。大学院歯学研究科は改組され、大学院口腔科学教育部となった。2007年には歯科衛生士（および社会福祉士）を養成するための機関として口腔保健学科が設置されている。



歯学部

工学部 OB の中村氏がノーベル賞受賞

なお、徳島大学工学部を卒業し、電子工学が専門の工学博士・中村修二氏が世界に先駆けて実用的な高輝度青色発光ダイオードを開発し、その発明によって赤崎勇氏・天野浩氏とともに 2014 年のノーベル物理学賞を受賞している。



理工学部講義棟

大学では、第4期中期目標・中期計画の中で、国際化を推進することを謳っており、基本理念や方針を策定している。その中で、教育面では（1）グローバル人材を育成する教育の確立（2）海外派遣制度の拡充（3）外国人留学生の受け入れ拡充（4）外国人留学生のための日本語・日本文化教育の充実——を進め、研究面では（1）国際レベルの研究力の強化（2）国際社会への貢献——を打ち出した。また、国際化への基盤整備としては（1）国際化推進のための組織の整備（2）海外の学術交流協定校及び同窓会との連携強化・活用（3）海外から求められる情報を的確に伝えるなどの広報の充実（4）グローバル・キャンパスへの整備（5）生活・経済支援の拡充——を挙げている。

学術交流協定校は32か国・地域の89大学などとなっている。外国人留学生数は、中国を中心に、アジア諸国、アメリカ、スウェーデン、クロアチア、エジプト、ウガンダ15か国・地域から計174人。（2022年11月現在）

学生数は、学部が5865（うち女性2253）人、大学院が1510（うち女性428）人である。（2023年5月現在）教職員は2391人（うち女性1238人）、このうち教員は937人（うち女性203人）である。（2022年11月現在）



令和4年度卒業式・修了式

現在の学長は、河村保彦氏である。1978年信州大学理学部化学科卒、1980年東北大学大学院理学研究科博士課程前期修了、1983年同博士課程後期修了、理学博士。徳島大学へは1985年工学部助手として入り、講師、助教授、教授などを経て2014年工学部長。その後、理工学部長、理事（教育担当）・副学長などを経て2022年4月から現職。専門は有機化学である。

日文：滝川 進

写真：徳島大学 HP& Facebook